

平成28年度

# 学校自己評価書

# 学校関係者評価書



## ■ 学校自己評価書（学校関係者評価を含む）

### 重点目標

- I 児童一人一人の個性や能力を引き出し、伸ばし、見届ける教育の推進を通して、「確かな学びの力」のための基礎を養う。
- II 児童一人一人に豊かな人間性を育てる心の教育の推進を通して、「確かな心の力」のための基礎を養う。
- III 基礎的な運動技能・能力を高め、運動に親しませる教育の推進を通して、「確かな体の力」のための基礎を養う。
- IV 児童一人一人がよき町民となるよう、将来にわたって社会性を身に付ける教育を通して、「日常生活の力」のための基礎を養う。

木城町立木城小学校

## <学力向上>

[4段階評価] 4: 大変よい 3: 概ねよい 2: やや改善を要する 1: 改善を要する

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評定	関係者評定	結果の考察・分析 及び改善策等 【○ 関係者コメント】
<b>【重点目標】</b>						
学 力 向 上	学習意欲を高める。	学習態度育成週間を利用して、姿勢・返事・挙手などの望ましい学習態度を身に付けさせる。 楽しく分かる授業づくりに努める。	立腰指導をはじめ、木城小スタンダード「学びの約束」の共通実践に当たる。  発問や板書を工夫するとともに、具体物の活用や操作活動を取り入れる。	3	3, 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習態度の育成に係る姿勢指導については、学校の重点課題ととらえ、「こしほね」(立腰)を合言葉に指導を継続している。</li> <li>児童の学ぶ姿勢や心構えの育成等を教育の基本に据え、「学びの約束」の共通実践が図られることで、受け身の教育から、個々の児童が主体的に学ぶ喜びを体感できる学習方法を身に付けていくことを願っている。</li> <li>学校は、学習態度の育成に努力していると思えう。</li> <li>「指導方法の工夫・改善による学習内容の確実な定着」に係る教職員アンケート結果から100%の肯定的回答が得られたが、4段階評価の評定4(よくあてはまる)については18%にとどまっている。</li> <li>上記教職員アンケート結果の18%のとらえ方については、これまでの取組に対する確かな手応えと実感した上で、更なる継続が望まれる。</li> <li>「授業改善の4つの視点」を踏まえた授業づくりに力を入れている。</li> </ul>
	基礎学力を定着させる。	単元末テストの平均点80点以上を達成する。 基礎・基本を定着させ、漢字力・計算力を高める。  学力検査(調査)の結果を指導に生かす。	算数科の少人数指導を効果的に実施する。 活用問題対策を含めた「ぐんぐんタイム」を計画的に実施する。  県・全国学力調査の結果を踏まえ、活用する力の向上に関する学年の取組を充実させる。	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数指導推進教員による実態把握とデータ管理の一元化を図り、学力の底上げを目指している。</li> <li>算数科のWeb評価問題に加え、国語科のB問題への取組も含めたぐんぐんタイムの確実な実施と、学年間の共通実践に努めている。</li> <li>昨年度作成した国語科のB問題集及び漢字プリントを活用した補充指導に努めている。</li> <li>小・中学校が連携して組織的に取り組んだり、児童の学ぶ意欲の向上や教員の指導力向上を目指す研修会を実施したりすることが大切である。</li> </ul>

	発展問題 ・探究学習に挑戦させる。	表やグラフの読み取りの力を高める。 探究的な学習ができる環境を整える。	グループワークやディベートなどのアクティビティブレーニングの取組を通して、能動的に考える場を与える。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的な学びの場はもとより、協働的な学びの場も設定し、ペアやグループでの活動も取り入れている。</li> <li>学級全体での学び合いの場を充実させたい。</li> </ul>
	伝える力の育成を図る。	話し合い活動の場を設定し、言語活動の更なる充実を目指す。	考え方や意見、気持ちを文にまとめ、相互に発表し合うとともに、聞き取りながら理解を深める手立てをとる。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級活動における話し合いの指導方法について夏季研修で再確認し、国語科を中心に他教科への指導に生かしている。</li> </ul>
読書指導	読書の習慣化を図る。	学校図書利用総冊数が前年度を上回るよう学校図書館利用の充実を図る。	学年部ごとに読書冊数の達成目標を設定する。 家読（うちどく）を奨励し、家庭読書の習慣化を図る。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>多読賞の基準を設け、月当たり低10冊・中7冊・高5冊を学年部の目標にして読書を促している。</li> <li>2月中旬段階における学校図書利用総冊数は、11286冊であり、児童一人当たりの貸出冊数は、計40冊（3.6冊／月）となった。学校司書の取組による効果も大きい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読書がしっかりと習慣になっていると思う。読書することで読む力や解く力が向上すると思うので、今後も指導をお願いしたい。</li> <li>○ 学校図書利用冊数が増えることは、国語など各教科の学力向上にもつながると思うので、更に図書利用をお願いしたい。</li> </ul> </li> </ul>
家庭教育	家庭学習の充実を図る。	家庭学習の充実に向けた働きかけを継続する。	学習内容の定着を図るための適切な課題を与える。 家庭学習時間の確保に努める。 家庭学習内容の点検・見届けをしてもらう。	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度、小中連携教育研究会において家庭学習の手引きを作成し、小中全家庭に配付した。活用状況についてのアンケート結果からは、手引きの活用が十分とは言えない現状が明らかになった。</li> <li>参観日の懇談会や通信等を活用して継続的に働きかけたり、保護者からの返信等も活用して双方向のやり取りを行ったりしている。</li> <li>次年度に向け、児童用手引きの作成も検討している。</li> </ul>

## <心の教育>

[4段階評価] 4: 大変よい 3: 概ねよい 2: やや改善を要する 1: 改善を要する

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評定	関係者評定	結果の考察・分析 及び改善策等 【○ 関係者コメント】	
<b>【重点目標】</b>							
心の教育	豊かな心を育てる。	様々な体験（栽培活動）や、学習経験（道徳の時間・学級活動等）を充実させる。	体験活動を重視し、時代に即した道徳教育を計画的に推進する。			<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度より導入される「道徳科」の実施に向け、道徳教育の全体計画を見直すとともに、他教科等との関連を明確にした「別葉」を作成した。</li> <li>教師アンケートの結果から「清掃場所でのチャイム黙想」100%、「無言清掃の指導徹底」94%の肯定的回答回答が得られた。</li> <li>12月末の児童アンケートの結果からは「清掃場所でのチャイム黙想を守っている」98%、「無言清掃をしている」97%の肯定的回答回答が得られた。</li> </ul>	
		清掃についての重点指導事項を確認し、指導を徹底する。 日頃から普通教室や特別教室等の整理整頓に努め、教育環境を整える。	清掃時間の使い方を工夫するとともに、児童一人一人に清掃の仕方を理解させ、清掃場所でのチャイム黙想と無言清掃を徹底する。	3	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校を訪問した時に、清掃がしっかりとなされていた。</li> <li>全校児童の美しい歌声が聞かれるようになってきた。また、「時期に配慮した掲示の工夫」に係る教師アンケートの結果から94%の肯定的回答回答が得られた。</li> </ul>	
基本的な生活習慣		美しいものを感じ取る感性を育てる。	音楽（歌）のある環境、児童の作品（絵・作文・詩・俳句）、各種掲示物が常に掲示された教育環境づくりに努める。			<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の教育活動において、一定の成果がみられる。さらに、「豊かな心」のあるべき姿を細分化し、その姿を具現化していく方策を工夫するとともに、段階的に成果が確認でき、評価しやすいものにすることで、教職員と児童が手応えを共有できるとよいのではないか。</li> </ul>	
		基本的な生活習慣を身に付けさせる指導を継続する。	特に、あいさつ・返事を中心に指導を徹底する。	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>「地域と連携したあいさつ指導」に係る教師アンケートの結果から93%の肯定的回答回答が得られたが、児童の声にやや元気がない。</li> <li>12月末の児童アンケートの結果からは「進んであいさつをしている」90%の肯定的回答回答が得られた。</li> </ul>	

					<ul style="list-style-type: none"> <li>○ あいさつは、重要なコミュニケーションの一歩であるので、もっとできるようになってほしい。大人側にもやや問題があるとは思うが。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トイレのスリッパ並べ、静かな廊下歩行については、継続した指導を要する。</li> </ul> </li> </ul>
生徒指導	社会性を育てる。	<p>集団活動や集団生活を通して、規範意識を育てるとともに、協力して助け合う態度を育てる。</p> <p>何事にも積極的に進んで取り組み、自分のよさや特徴を出そうとするたくましい態度や行動力を育てる。</p> <p>教育相談を充実させ、児童理解に努める。</p>	<p>集団活動や集団生活を通して、高学年のリーダー的資質を伸ばす。</p> <p>話し合い活動を通して、学校生活の課題解決につなげられるよう指導する。</p> <p>定期的なアンケートと教育相談を連動させ、的確な児童理解に努めるとともに、現状及び対策を共有するラポール委員会（いじめ・不登校対策委員会）を効果的に実施する。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動会では、高学年をリーダーとした、望ましい集団行動が見られた。</li> <li>○ 運動会は、高学年を中心によつまつりが見られ、集団行動がよくなされていると感じた。</li> <li>・ 議題を設定した学級における話し合い活動を重視するよう努めている。</li>   <li>・ 定期的なアンケート、年5回の教育相談、ラポール委員会（いじめ・不登校対策委員会）を連動させて実施し、いじめと判断できる事態が発生しないよう、意識を高めている。</li> <li>・ 悩みや不安を抱えた児童に対して、常時指導として様々な場面で声を掛けたり、道徳や学級活動の授業を通して未然防止及び早期解決に心掛けたりしている。</li> <li>○ いじめ・不登校問題は、関係機関・家庭・地域社会（安全守る隊など）と連携して対策の実施をお願いしたい。</li> </ul>
自主・自立的活動	自主的・自立的な力を育てる。	<p>委員会、代表委員会、児童集会活動等各活動に対して、児童が進んで取り組めるようにする。</p> <p>朝のボランティア活動を推奨する。</p>	<p>自ら計画を立て、自分たちの問題として考え、自ら行動できる仕組みを整える。</p> <p>児童の自主的な活動として、登校後に正門や校庭の清掃等を行うよう働きかけを継続する。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「委員会活動の充実」に係る教師アンケートの結果から100%の肯定的回答が得られたが、4段階評価の評定4（よくあてはまる）については12%にとどまっている。児童の自主的な動きへの指導がまだ十分ではない。</li> </ul>

# <体力向上>

[4段階評価] 4: 大変よい 3: 概ねよい 2: やや改善を要する 1: 改善を要する

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評定	関係者評定	結果の考察・分析 及び改善策等 【○ 関係者コメント】
<b>【重点目標】</b>						
		○ 基礎的な運動技能・能力を高め、運動に親しませる教育の推進を通して、「確かな体の力」のための基礎を養う。				
体力向上	体力づくり	体力を育てる。  「握力」「長座体前屈」「20mシャトルラン」でTスコア50以上を目指す。	教科体育の充実を図り、筋力・瞬発力・持久力等の体力を高める。  体力テストの結果48項目中30項目が県平均を上回る。	サーキットトレーニングや、体育の時間の始めに工夫した強化運動を取り入れる。  なわとび・持久走運動を計画的に実施する。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度の体力テストの結果を基に、体力向上プランを作成するとともに、学校全体の共通実践目標を設定し、日々の体育科授業で実践している。</li> <li>今年度のA判定児童数は、34名(12%)。</li> <li>今年度の体力テスト結果を基に、分析と新しい目標を設定し、次年度の体力向上プランを作成した。</li> </ul> <p>○ 恵まれた自然環境にあることを日常生活から体感させたい。昔遊びやサバイバル的体験等で自然から学べる感性や知恵を大切にしながら、臨機応変に身を守る動きが自然に(本能的に)できる訓練が日頃から大切ではないか。</p>
	技能・能力	運動技能・運動能力を高める。	体育指導を計画的に進めるとともに、体力向上プランを適切に実践する。	各種運動技能について、達成カード等を用いて高い目標をもたせながら継続的に取り組ませる。  体育実技研修を実施し、指導力の強化に努める。	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>「体力向上プランを生かした指導」に係る教師アンケートの結果から87%の肯定的回答が得られたが、4段階評価の評定4(よくあてはまる)については0%であったことから、プランの共通理解と適切な実施が課題である。</li> </ul> <p>○ 近年の児童は、体力や運動技能が低いといわれるが、児童一人一人の能力に応じた指導方法の工夫を通して、自己健康管理能力や、基本的な生活習慣を身に付けた心身共に健康な児童の育成を目指してほしい。</p>
	健康教育	健康的な生活習慣を身に付けさせる。	「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に、一日の生活リズムを身に付けさせる。  手洗い・うがい・身だしなみ等基本的な生活習慣を身に付けさせる。	「よく食べて」「よく動いて」「よく寝る」などの日常化を推進する。  毎月、朝食摂取や就寝時刻等の実態を把握し、健康な生活への意識付	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>「保健指導の効果的な実施」に係る教師アンケートの結果から94%の肯定的回答が得られたが、4段階評価の評定4(よくあてはまる)については19%であった。健康生活週間における実態調査及び啓発を継続する。</li> </ul> <p>・ 12月末の保護者アンケートの結果からは「早寝・早起き・朝食摂取等の家庭生活習慣の定着」について79%</p>

		<p>むし歯治療率 70%以上を達成する。</p> <p>けを図る。 健康生活週間に おける取組（さわ やかチェック）及 び保健だよりによ る家庭への働きか けを継続する。</p> <p>むし歯予防とむ し歯治療の働きか けを推進する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童の「早寝・早起き・朝食摂取」が100%になるよ うに家庭への呼び掛けをPTAとしても行っていきたい。</li> <li>・ 年度当初の歯科検診の結果 を基に、保護者への啓発文書 を発送したり、様々な機会に 治療の達成状況を知らせたり している。</li> <li>・ 2月中旬段階での治療率 は、75.4%で目標は達成 した。今年度は、80%を超 える治療率を期待してい る。3月に、最終勧告を行 う予定。</li> </ul>	
食 育		<p>食育の機会を通 して、体によいも のを考えて食べる 習慣を身に付けさ せる。</p> <p>給食時間の指導 を適切に行い、充 実した給食がで きるようにする。</p> <p>朝食摂取・給食 完食100%を目 指す。</p> <p>年3回「弁当の 日」を実施する。</p>	<p>食に関する指導 全体計画に則した 指導に努め、給食 指導の充実を図 る。</p> <p>食物アレルギー による事故を未然 に防ぐ。</p> <p>「弁当の日」を 設定し、食への関 心を高める。</p>	<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「食に関する指導の充実」 に係る教師アンケートの結果 から86%の肯定的回答が得 られたが、4段階評価の評定 4（よくあてはまる）につい ては29%であった。</li> <li>・ 12月末の児童アンケート の結果からは「給食は残さず 食べている」について97% の肯定的回答が得られた。</li> <li>・ 給食センターや関係職員の 協力により、食物アレルギー の事故も現在起きていない。</li> <li>・ 学級活動や日々の給食指導 によって食に関する実践的指 導を行う一方で、年間3回設 定された「弁当の日」の取組 で家庭への啓発も継続してい る。</li> </ul>

# <心豊かでたくましい人づくり>

[4段階評価] 4: 大変よい 3: 概ねよい 2: やや改善を要する 1: 改善を要する

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評定	関係者評定	結果の考察・分析 及び改善策等 【○ 関係者コメント】
<b>【重点目標】</b>						
		○ 児童一人一人がよき町民となるよう、将来にわたって社会性を身に付ける教育を通して、「日常生活の力」のための基礎を養う。				
心豊かでたくましい人づくり	人材育成	児童一人一人に木城小スタンダードを定着させる。	基本的な所作を身に付けた、信頼される人材を育成する。	木城小スタンダードを活用した指導を継続的に行い、当たり前のこととが当たり前にできるようにする。	3  3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初、学校における「知・徳・体」の約束をまとめた「木城小スタンダード」について全校児童を対象に一斉指導した。 〔木城小スタンダードの内容〕            「学び」の約束            学習用具 授業準備            話の聞き方 発表の仕方等            「生活」の約束            集団登校 『日々新』唱和            校内でのきまり 清掃            校外でのきまり等            「体育・給食」の約束            集団行動 身だしなみ            給食のきまり等         </li> <li>○ 基本的な所作や凡事の指導は、体力の向上と相通じる点が多く、学校生活だけで身に付けさせることは難しいと考える。家庭や地域社会との連携を図り、あらゆる場面や機会をとらえて、体で覚えさせる必要性を感じる。学校での取組を町民等に対しても積極的に発信し、理解と協力を呼び掛けることで、地域社会との距離感を近づけるよい機会としてほしい。</li> </ul>
	教育環境	凡事徹底の指導を推進する。	凡事徹底を通して、教育環境の基盤を整備する。	花いっぱいの学校、ごみのない教室や廊下・階段、帽子・靴・傘・衣類・机・椅子が整理整頓された学校環境づくりを推進する。 教室に児童の作品がたくさん掲示・展示された学校環境づくりを推進する。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙くずなどが教室の床に落ちたままになっている学級があった。清掃時間のみでなく、移動・準備の時間にも意識して拾わせ、常に教室の学習環境を整えていく教師の意識の高まりが必要である。</li> <li>○ 日常生活の力を育成するに当たり、よく努力していると感じる。しかし、「心豊かでたくましい人づくり」は、学校だけではできないことが多いと思う。家庭との連携が必要である。</li> <li>○ 道路での危険な遊びが見られることがある。重大事故につながる可能性もあることから、生徒指導・安全指導を徹底してほしい。</li> <li>○ 地域社会と連携し、自然体験活動やものづくり体験等を通して、自然の美しさや命の大切さ、物を大切にする心を育ててほしい。</li> </ul>

## <校長所見>

### 次年度の方 向性につい ての校長の 所見

学校経営ビジョンを基に「学力向上」「心の教育」「体力向上」「心豊かにたくましい人づくり」について学校経営を進めてきた。

年度当初の計画を学期ごとに評価し、改善できることは途中からでも変更し、実施に移してきた。

特に、学力向上については、町の施策による学力向上サポーターの配置が効果的であり、習熟度別にきめ細かな指導を推進することができた。また、県の事業である重点支援校訪問を受け、児童が「分かる・できる」まで教える授業づくりを構想しているところである。次年度も、国語科における「読みの力」のレベルアップを図ることで、他教科への更なる波及を期待したい。また、図書司書の配置も児童の読書に関して質量共に高まったととらえている。

德育に関しては、児童の明るい元気なあいさつについて、継続した指導の必要性を実感した。また、昨年発生したようないじめの確認はなされていないので、今後も見守っていきたい。

保健に関しては、昨年度に引き続き歯科衛生面でむし歯治療率が改善している。今後も更に高い治療率を目指したい。

家庭・地域社会に対しては、学校からの配付物を適時発行し、学校の様子を知らせてきた。ホームページの更新や安心メールも有効に活用してきた。今後も続けていきたい。

次年度も、校長の学校経営ビジョンに連動したきめ細かい評価を行うことで、学校運営の充実を図り、学校経営の改善に努めたい。